「行政視察報告書」（視察･調査の経過及び感想）

◎ 派 遣 先　（１）岐阜県郡上市　７／　９(木)　14:00～15:30
（２）長野県南木曽町　７／１０(金)　13:00～14:30
（３）岐阜県中津川市　７／１０(金)　15:00～16:30
（４）愛知県名古屋市　７／１１(土)　10:00～11:30

１．視察･調査の経過及び感想について

（１）岐阜県郡上市　７／９(木)　１４：００～１５：３０

「歴史的風致維持向上計画によるまちづくり」について

八幡公民館に到着。郡上市市議会議長　尾村忠雄氏、同建設部都市住宅課長　山田哲生氏、同課　福手雅紀氏、河合辰之氏の出迎えを受ける。

郡上市は、岐阜県のほぼ中央部に位置し、面積1031㎢（倉吉市は272㎢）、人口44000人である。長良川を始め一級河川が２４本あり、豊かな水資源に恵まれ、夏は郡上踊り・ラフティング・鮎釣り、秋の紅葉、冬のスキー場をはじめ毎年約600万人の観光客が訪れる市である。平２４年１２月に重要伝統的建造物群保存地区、平成２６年２月に歴史的風致維持向上計画の認定を受けた。

郡上市建設部より「歴史的風致維持向上計画によるまちづくり」について、パワーポイント等を使った説明を受け質疑をした。

〇歴史的風致：地域の歴史を反映した人々の活動と地域が一体となって形成した市街地。ハード（建造物）とソフト（人々）をあわせた概念。

・平成20年11月施行の法律：通称「歴史まちづくり法」に基づくもので、現在49市町の計画が認定されている。

・計画期間：１０年間

・郡上市の歴史的風致

水の町郡上八幡、郡上踊り、城下町の大神楽等７つ

・重点地区：城下町郡上八幡地区　818ha

・この事業の一環として、電線類無電柱化整備、道路周辺整備、防災施設整備等を計画事業費約19億5千万円（国庫補助対象18億2千万円）を行うこととなっている。

その後、郡上市職員の案内で､まちなか散策を行う。重要伝統的建造物群と踊り、水の町の様子がよくわかった。本市においても、郡上市のように歴史的まちづくりという視点でのハード･ソフト両面の整備が進められるのではないかと感じた。

（２）長野県南木曽町　７／１０(金)　１３：００～１４：３０

「妻籠宿の保存と歴史的遺産を活用したまちづくり」について

JR南木曽町よりタクシーで視察地の妻籠宿に到着。旅籠「藤乙」で昼食。藤乙には観光･宿泊客も多く、インバウンド（訪日外国人客）特に西洋からの観光客が多いように感じた。妻籠宿は全国で初めて重要伝統的建造物群保存地区に認定された地域である。はじめに、このことについて視察地を中心にまとめると次のとおりとなる。

番号	県名	地区名称等	種別	選定年月日	基準	面積(ha)
37	長野	南木曽町妻籠宿	宿場町	昭51. 9.4	(三)	1245.4
43	岐阜	郡上市郡上八幡北町	城下町	平24.12.28	(三)	14.1
67	鳥取	倉吉市打吹玉川	商家町	平10.12.25	(一)	9.2
合計	**43道府県90市町村110地区**					**3,787.9**

＜重要伝統的建造物群保存地区一覧より抜粋＞
（平成27年7月8日現在）

伝統的建造物群保存地区を形成している区域のうち次の各号の一に該当するもの
（一）伝統的建造物群が全体として意匠的に優秀なもの
（二）伝統的建造物群及び地割がよく旧態を保持しているもの
（三）伝統的建造物群及びその周囲の環境が地域的特色を顕著に示しているもの

＜重要伝統的建造物群保存地区選定基準＞

昼食後、南木曽町博物館へ移動。南木曽町　議会事務局長　櫻井親一氏、同教育委員会教育長　森洋司氏、同教育委員会文化財町並係長　鈴木義幸氏等の出迎えを受ける。

南木曽町職員から「町の概要及び妻籠宿の保存と歴史的遺産を活用したまちづくり」の説明を受ける。

南木曽町は、面積216㎢（倉吉市は272㎢）、人口4400人である。面積の9割近くを森林が占める。少子高齢化が進み、この２０年間で町全体で約２２％、妻籠地区では２８％と人口減少が著しい。妻籠宿の観光地利用者は平成１２年頃がピークで120万人にのぼったが、現在では５０万人弱となっている。

妻籠宿保存事業の概要：明治以降の交通改革により宿場としての機能衰退、高度経済成長による若者たちの都市部流出の中「保存することが開発である」という方針の下始まった。長野県明治100周年事業、その後の集落保存と女性誌による情報等もあり妻籠宿には観光客が急増した。昭和５１年４月、「妻籠宿保存地区保存条例」の交付とともに、全国最初の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

固定資産税の特例措置（免除）や各機関･団体（電力会社、営林署、郵便局、県建設事務所等）との連携や妻籠宿保存審議会や妻籠宿を守る住民憲章の制定等で、「保存優先の原則：妻籠宿と旧中山道沿いの建物・屋敷･農耕地･山林等について『売らない』『貸さない』『こわさない』」の三原則」を定めたりしている。保存にあたっては、「妻籠を愛する会」が保存事業に関わる住民活動の中核的存在として今日に至っている。高齢化の進展、空き家、観光客の減少に伴う駐車場収入減等様々な課題に直面している。全体的な観光客の減少に反し、インバウンド、特に西洋人の観光客は増えており、その対応にも力を入れているとのことである。

説明・質疑の後、南木曽町職員の案内でまちなみを散策した。観光客の減少、高齢化と人口減少を抱えながら、行政が中心となってまちづくりに様々な観点から取り組んでいることを伺うことができた。伝建群地区として全国で初めて認定を受け、有名な観光地である妻籠宿での課題は、全国で110カ所ある伝建群地区の一つである倉吉の課題でもある。

（３）岐阜県中津川市（馬籠宿）　　７／１０(金)　　１５：００～１６：３０
「馬籠宿地区のまちづくり」について

妻籠宿に別れを告げ、タクシーで馬籠宿へ。妻籠・馬籠間は、ハイキングコースとして観光客にも人気である。途中、子安観音、子規句碑、十返舎一九碑等を目にする。駐車場から石畳の坂道を下る。馬籠宿は、昭和40年代、女性雑誌のアンアン・ノンノンに「木曽路を旅するバックをしょったカニ族爆発的に発生！大人気」と掲載され、一気に観光客が訪れる宿場町として有名になった。馬籠宿の住所は、岐阜県中津川市にある。かつては、長野県に所属し、山口村の馬籠宿地区であった。平成の市町村合併の折、岐阜県中津川市に入り現在に至っている。途中、宿場町としての歴史等を「馬籠本陣資料館」で視察する。

観光案内所で、馬籠観光協会会長　原真理人氏等の出迎えを受ける。原氏より馬籠宿地区のまちづくりについて説明を受ける。

馬籠宿は、道路が南北に貫通している急な山の尾根に沿い､急斜面でその両側に石垣を築いては屋敷を造る「坂のある宿場」である。そのため、水に恵まれず火災が多かった。明治28年と大正4年の大火で、古い街並みの建物が焼失している。

観光客の急増と皇室の２度にわたる訪問などで注目度が上がり、観光客を受け入れるための宿泊施設や食堂･土産店が出現することとなった。しかし、昭和４０年代から俗化が進行し、「良好な自然環境」の整備が急務となった。住民協定の制定、旧山口村観光協会の発足、行政の支援を受けながら住民パワーで町並の電柱撤去、観光診断と観光地整備、フィールド博物館整備事業等を通じて現在に至っている。馬籠宿のまちづくりの主体は民間であり、行政はフォローにあたっている。

人口減少と高齢化、観光客の減と層の変化（外国人客の増）等は妻籠宿と同様の課題であった。わずかな距離にある妻籠宿と馬籠宿、それぞれが独自の取り組みを進めておられた。連携を取った取り組みが進めばより効果が上がるとは感じた。

（４）愛知県名古屋市　　７／１１(土)　　１０：００～１１：３０

中心市街地における文化施設（美術館等）について

当初予定はなかったが、帰途までの時間を活用して愛知県立博物館へ。同美術館は、地下鉄･名鉄栄駅からオアシス２１連絡通路利用で徒歩３分の場所にある「まちなか美術館」である。また、美術館機能に限らず、ギャラリー、コンサートホール、大・小ホール、天望回廊、アートスペース、レストラン、喫茶等を有する地上１２階地下５階の総合文化施設でもある。人口２３０万名古屋市民の文化・芸術等施設として利活用されている。

＜開館を待つ人達＞

開館の午前１０時より多少早く到着したため、天望回廊で眼下に広がる名古屋の景色を眺めたり、施設の見学等をして時間を過ごす。開館前にもかかわらず、美術館入り口には入場を待つ列ができていた。

美術館では、「生誕１１０年　片岡球子展」を行っていた。北海道に生まれ、横浜市の小学校教師、愛知県立芸術大学日本画主任教授をしながら美術を極め、１００歳近くまで筆をとった片岡球子。１０３歳で亡くなるまで画家であり続けた球子。鮮烈な色彩、大胆にデフォルメされた形、力強い筆使いの約６０点の作品、４０点余りのデッサンなどの資料に圧倒された。

＜天望回廊から見た名古屋＞

特別展以外にも常設展も充実していた。名古屋と倉吉とを同じには考えられないが、まちなか施設、１２街区の利活用等も考えさせられた。

２．視察･調査を終えて

「視察･調査の経過及び感想について」に載せたことはもちろん、他にも沢山のことを学ばせて頂きました。われわれの視察に際し、時間を割き対応していただいた郡上市・南木曽町の職員の皆様・馬籠宿観光協会の皆様、到着から出発まで「おもてなし」の心で細やかな心配りをして頂き、本当にありがとうございました。

視察を通して本市に還元できることを取り入れ、市民の皆さんにお役に立てるよう精進いたします。